

2017年5月12日

防衛大臣 稲田 朋美 様

沖縄防衛局長 中嶋 浩一郎 様

衆議院議員 照屋 寛徳

社会民主党沖縄県連合 執行委員長 照屋 大河

### 嘉手納基地の機能及び訓練強化等に対する抗議申し入れ

去る5月10日、米軍は嘉手納基地における夜間パラシュート降下訓練を強行した。住宅密集地での日没後の訓練は、集落への落下事故等の起きる危険性が格段に高まり、言語道断である。満腔の怒りをもって抗議する。

今回の夜間パラシュート降下訓練強行は、あまりに問題点が多すぎる。

第一に、SACO合意違反の嘉手納基地でのパラシュート降下訓練は、4月24日早朝に強行されたばかりだ。わずか16日後に、嘉手納町など関係市町村や県の申し入れ、訓練中止を求める県議会の全会一致の抗議決議等を完全に無視する形で、繰り返されていることに激しい怒りを禁じえない。

第二に、事前通告も訓練開始予定時刻の4時間前だ。関係自治体への通報が前日夜間であったことに不満が出た前回訓練の反省が全く生かされていない。中嶋局長自ら第18航空団司令部に出向いて訓練中止を求めても、暖簾に腕押しでは、沖縄防衛局の存在意義そのものを問わざるを得ない。

第三に、嘉手納基地における夜間降下訓練は、これまで聞いたことがない。SACO合意違反の同基地でのパラシュート降下訓練を「例外的措置」とする政府の立場においても、前代未聞の夜間訓練強行は認められないはずだ。「例外」に「例外」を重ねて既成事実化させ、恒常化させるようなことを絶対に許してはならない。

皮肉にも、10日午後には、米コロラド州バックリー空軍基地所属のF16戦闘機2機が飛来し、12機すべての配備が完了した。米州軍部隊の「暫定配備」が恒常化している中、向こう3~4か月間にわたって、周辺住民は外来機の爆音に苦しめられることになる。

間もなく、本土復帰45年の節目の日を迎えるが、嘉手納基地の訓練及び機能強化で、県民の怒りは沸騰している。防衛省・沖縄防衛局には、米軍と対峙し、県民に寄り添う姿勢での対応を強く求め、嘉手納基地における今後一切のパラシュート降下訓練の中止及び米州軍機の配備禁止を申し入れるものである。

以上